

ロシアの企業・行政関係者―最先端の住宅暖房技術学ぶ

苦小牧のモデルハウス視察

寒冷地型全館空調システム紹介



最先端暖房システムの説明を受ける
ロシアの企業関係者

事業の一環。エアコン1台で住宅1棟の冷暖房に対応する最新システムが紹介され、参加者も関心を寄せた。

一行は12日に来道。13日は市内沼ノ端の岩倉化学工業や厚真町にある北電の大型蓄電システム施設などを見学後、室蘭市に本社がある住宅メーカー「住まいのウチイケ」が建設したモデルハウスを訪れた。この戸建て住宅では、東京都のシステック環境研究所が開発したエアコン1台で冷暖房ができる寒冷地型全館空調システムを採用。胆振管内ではウチイケが専属で扱っている。

に入れ、壁や床に通した管で暖気や冷気を全室に供給する仕組み。「家屋全体を暖める考え方で、人間が快適に感じる24度前後の温風を各部屋に送風する。24時間365日を快適な空間で過ごせる」と話した。

参加したロシア関係者は技術面などで活発に質問。サハリン州で建設会社を経営し、同州知事相談役を務めるアリペロビッチ・ピクトルさん(64)は「ロシアのエネルギー資源は豊富にあるが、インフラ環境は不十分なところもある。戸建てニーズの高まりもあり、この技術はわが国にとっても大変参考になる」と高い関心を寄せた。

一行は17日まで道内に滞在。ニセコや札幌、江別などの電力やバイオマスエネルギーの関連施設、廃棄物リサイクル施設を訪問するほか、ビジネス交流セミナーなどに参加する予定だ。

ロシアの建設会社や行政、モデルハウスを視察した。ロシア極東との連携促進を狙い

に、道が昨年から実施している省エネ技術などをPRする

大学関係者の視察団14人が13日、最先端の暖房システムを

採用した苦小牧市ウトナイの

2

4

5